

<今日の説教のポイント 出エジプト記3章1～14節>

不思議な燃え尽きない柴の出来事から私たちが聞き取るべきことは何？

1 (1-3) 神様が、モーセを召すために起こされた不思議。

燃え尽きない柴 — 不思議な出来事です。しかし、神様がイスラエル人の苦しみを思い(2:23-25)、モーセを用いるために、この出来事を起こされたとしたら(3:7-10)、それはあり得ます。人間が勝手に自分の頭で作り出す神ではない、向こう(神様)から御自身の思いを示される本当の神様の出来事です。ですから私たちも、モーセと一緒に、この神様が示されることを見、語られることを聞かなければならないのです。

2 (3-4) 「道をそれて」神様を求めることは悪くない。むしろ大事。

モーセは「道をそれて」(3)もその不思議が何かを見届けようと思いました。また、神様もモーセが「道をそれて」(4)見に来るのを見て、モーセに声をかけられました。私たちもそれぞれ、「道をそれて」聖書の言葉に聞いてみようという思いが与えられ、今ここに集っているのです。そして、その私たちに神様が聖書を通して語りかけて下さっているのです。

3 (5-6) 「聖なる土地」の「聖」の意味は清いではない。では何？

神様はそのモーセに(その私たちに)最初に語られたことは、「私に対して恐れ(恐れ)を持ちなさい」、ということです(5)。もし本当にその方が神様であったなら、それは当然のことでしょう。「聖なる土地」(5)の「聖」とは「カードーシュ：神のものとして分かたれた、神に属する」という意味であり、5～6 節で考えなければならないことは、その土地自体ではなく、そこで出会った神様に畏れを抱くということです。「聖書」「聖徒」も、清い書、清い人々ではなく、「神の書」「神の民」という意味です。畏れる(よって、恐れる)べきお方を「聖書」を通して知った者は、「神の民」とされる恵みをも知らされるのです。

4 (7-10) モーセが召された理由を聞く時、神様の憐れみ深さを知る。

この神様は、モーセの一族、エジプトにいるイスラエルの人々の苦しみを放っておけない、憐れみ深い神様なのです(7-10。「知った」(8)の原語は深い認識を示すヤダー)。モーセは少しずつ神様のことを理解して行きます(続き)。私たちも同じです。しかし、私たちはさらに、この神様がイエス・キリストをお送り下さったことを知っているのです！